

# 「ちばエコ農産物」栽培のために! (品目別栽培カード 12)



## ニンジン・秋冬どり栽培

千葉県農林水産部

### 1 栽培基準

ニンジン・秋冬どり栽培の栽培基準は、  
化学合成農薬(使用成分回数)8回以下、  
化学肥料使用量(窒素成分)7.5kg/10a  
以下です。

また、堆肥の施用は、2,000kg/10aが  
目安量とされています。(表1)



▲ ニンジン・秋冬どり栽培(富里市)

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量  
(平成18年4月現在)

区 分	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)	収穫期
	化学合成農薬使用回数 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)		
秋冬どり	8	7.5	2,000	—

## 1 病害虫防除

害虫対策としては、圃場でこまめにチェックし、初期発生を確認してから対症療法的な防除に努めます。また、病害対策としては、問題となる病害を的確に判断し、予防的に最低限の定期散布を実施します。

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

### ● 播種期

播種時に、ネコブセンチュウやネグサレセンチュウなどの線虫対策とネキリムシ対策を同時に行います。また、播種直後に除草剤を全面散布します。

### ● 生育期

問題となる主要な病害は、黒葉枯病、斑点病で、害虫はヨトウムシ類、アブラムシ類、キアゲハの幼虫などです。発生時期が8月中旬から10月上旬頃なので観察をこまめに行って、必要最小限の防除を行うようにします。殺菌剤では、ダコニール1000、ベルコート水和剤、カスミンボルドーなどが使用できます。殺虫剤では、DDVP乳剤50、エルサン乳剤、ディブテレックス乳剤、アフーム乳剤などが使用できます。10月中・下旬以降は低温期となるため、病虫害の発生は極めて少なくなりますが、どうしても必要な場合は、ストロビーフロアブル(殺菌剤)を使用します。

### ● 化学合成農薬に含めない農薬を活用する

「ちばエコ農産物」の化学合成農薬としての成分回数にはカウントされない農薬を有効に活用します。黒葉枯病に対してはポリオキシシンAL水和剤が5回以内、ハスモンヨトウ等の発生が多い場合はゼンターリ顆粒水和剤が4回以内で使用できます。

### ● 農薬の使用に当たっては、各剤の収穫前使用日数を遵守します

表2 ニンジン・秋冬どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

散布時期	農薬名	施用回数(量)	対象病害虫	備考
7月下旬	ネマトリンエース粒剤	20kg/10a	ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウ	播種前
	フォース粒剤	4kg/10a	ネキリムシ類	播種時
	クレマートU粒剤	5kg/10a	一年生雑草	播種直後
9月上旬	ベルコート水和剤	1,000倍	黒葉枯病	
	DDVP乳剤50	1,500倍	アブラムシ類	
9月中旬	カスミンボルドー	1,000倍	黒葉枯病	
	ディブテレックス乳剤	1,000倍	キアゲハ	
9月下旬	黒葉枯病に対しては、ポリオキシシンAL水和剤(500倍、5回以内)、ハスモンヨトウ等の発生が多い場合、ゼンターリ顆粒水和剤(1,000倍、4回以内)		黒葉枯病	
10月上旬			ハスモンヨトウ	
10月中下旬	ストロビーフロアブル(どうしても必要な場合)	3,000倍	黒葉枯病・斑点病	
	7回(8回)*			

\*ストロビーフロアブルを使用した場合の回数

## 2 施肥

ニンジン・秋冬どりの「ちばエコ農産物」栽培における施肥の基本的な考え方は、化学肥料窒素を栽培基準の7.5kg/10a以内とし、不足する分を有機質肥料で代替することです。ただし、圃場に残存している窒素分も考慮して、過剰な施肥は行わないようにします。

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。農林総合研究センターの成果から、「目標収量5,000kg/10aを得るための施肥窒素量は、施肥窒素と土壤残存窒素の合計を11kg/10aとする」と設定できます。土壤残存窒素(ここでは作土層(深さ0~15cm)の硝酸態窒素分析値mg/100g乾土)は、そのまま10a当たりの施肥窒素量(kg/10a)として換算できます。すなわち、施肥窒素量(kg/10a)=11-土壤残存窒素(kg/10a)の式から算出します。

表3の場合は、土壤残存窒素(硝酸態窒素)が2.1mg/100g乾土ですので、 $11-2.1=8.9(\text{kg}/10\text{a})$ が施肥窒素量(基肥)です。このうち、7.5kg/10aを化学肥料で施用しますので、 $8.9-7.5=1.4(\text{kg}/10\text{a})$ を有機質資材(なたね油かす)で施用します。

追肥は原則として施用しませんが、追肥をする場合は、基肥と追肥の化学肥料使用量(窒素成分)が7.5kg/10a以下になるように注意します。

表3 ニンジン・秋冬どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量(kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふん堆肥				2,000			
基肥	CDU-S555	15	15	15	50	7.5(7.5)	7.5	7.5
	なたね油かす粉末	5.3	2	1	26	1.4	0.5	0.3
	熔リン	0	20	0	110		22.0	0.0
	硫加	0	0	50	24			12.0
	苦土石灰	0	0	0	100			
総施用量						8.9(7.5)	30.0	19.8

注1) ( )内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量。

2) 堆肥は、前作の作付前に施用する。

3) 本圃場における作付前の作土層(深さ0~15cm)の硝酸態窒素濃度は、2.1mg/100g乾土である。



▲ 収穫掘り取り時のニンジン



▲ 慣行栽培と「ちばエコ農産物」栽培基準で栽培された収穫物比較  
 (左：慣行区・右：ちばエコ区)

☆この「品目別栽培カード」に記載した農業使用は、平成19年度現地実証試験時点のものです。実際の農業使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農業使用基準を守って使用してください。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課  
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成20年3月

■ 内容についての問い合わせ先  
 千葉県農林総合研究センター TEL.043(291)9987  
 または各地域の農林振興センター